

専任教員の実務経験

氏名	資格・実務経験	教育科目
中村 大隆	柔道整復師 柔道整復師専科教員 認定実技審査員(柔道整復実技審査員) 卒後臨床研修指導者資格 柔道初段 病院および施術所における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 鹿児島県柔道整復師会 本会員	柔道整復実技Ⅰ 柔道整復実技Ⅲ 臨床柔道整復学Ⅰ 関係法規 柔道整復臨床実技 臨床実習
知念 友紀	柔道整復師 柔道整復師専科教員 卒後臨床研修終了 柔道初段 病院および施術所における臨床5年以上 鹿児島県柔道整復師会 賛助会員	包帯固定学 保健医療 柔道整復臨床実技 臨床実習
竹山 理	柔道整復師 柔道整復師専科教員 卒後臨床研修終了 柔道初段 病院および施術所における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 鹿児島県柔道整復師会 賛助会員	解剖学Ⅰ 運動学Ⅰ 柔道整復学総論Ⅰ 臨床柔道整復学Ⅲ 柔道整復実技Ⅲ 柔道整復臨床実技 臨床実習
附田 拓也	柔道整復師 柔道整復師専科教員 卒後臨床研修終了 柔道5段 病院および施術所における臨床5年以上 週1回学外臨床参加 鹿児島県柔道整復師会 賛助会員	柔道Ⅰ 柔道Ⅱ 柔道整復臨床実技 臨床実習
三宅 史晃	柔道整復師 柔道整復師専科教員 卒後臨床研修終了 柔道初段 病院および施術所における臨床5年以上 鹿児島県柔道整復師会 賛助会員	柔道整復実技Ⅰ 柔道整復実技Ⅱ 臨床柔道整復学Ⅱ 柔道整復実技Ⅲ メディカルトレーナー フィジカルトレーナー
重田 哲郎	柔道整復師 柔道整復師専科教員 卒後臨床研修終了 柔道初段 病院および施術所における臨床5年以上	柔道整復学総論Ⅱ

柔道整復学科(1年生 新カリキュラム)

専門課程(医療分野)

区分		科目	規定単位	計画単位(時間)	1学年単位(時間)	2学年単位(時間)	3学年単位(時間)	実務
基礎分野	科学的思考の基礎人間と生活	医療心理学	14	2 (30)	2 (30)			
		情報科学概論		2 (30)	2 (30)			
		医療英語		4 (60)	4 (60)			
		保健体育		2 (60)	2 (60)			
		経営学概論		4 (60)	4 (60)			
		小計		14 (240)	14 (240)			
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	15	I	4 (60)	4 (60)		○
				II	4 (60)	4 (60)		
				III	4 (60)	4 (60)		
		生理学 * 1		I	4 (60)		4 (60)	
				II	4 (60)		4 (60)	
		運動学		I	4 (60)	4 (60)		○
				II	2 (30)		2 (30)	
	疾病と障害	病理学	11		2 (60)		2 (60)	
		一般臨床医学			2 (60)		2 (60)	
		外科学概論			2 (60)		2 (60)	
		整形外科学			I (30)		I (30)	
		リハビリテーション医学			2 (60)		2 (60)	
		衛生学・公衆衛生学			2 (60)	2 (60)		
	柔道整復術の適応		2		2 (30)			2 (30)
	保健医療福祉と柔道整復の理念	関係法規 * 2	8	I	6 (90)			6 (90) ○
		保健医療 * 3			I (15)			I (15) ○
		柔道		I	2 (60)	2 (60)		○
				II	2 (60)		2 (60)	○
	社会保障制度		I		I (15)			I (15)
	小計		37		51 (990)	20 (360)	20 (450)	11 (180)
専門分野	基礎柔道整復学	柔道整復学総論	10	I * 4	6 (180)	6 (180)		○
				II	4 (120)			4 (120) ○
		臨床柔道整復学 * 5	17	I	4 (120)		4 (120)	○
				II	2 (60)		2 (60)	○
				III	2 (60)		2 (60)	○
				IV	12 (360)			12 (360)
	柔道整復実技	包帯実技	17		3 (90)	3 (90)		○
		I * 6			2 (60)	2 (60)		○
		柔道整復実技		I	4 (120)	4 (120)		○
				II	4 (120)		4 (120)	○
		柔道整復臨床実技 * 7		III	4 (120)			4 (120) ○
	臨床実習		4		4 (180)		3 (135)	I (45) ○
	小計		48		51 (1590)	15 (450)	15 (495)	21 (645)
	合計		99		116 (2820)	49 (1050)	35 (945)	32 (825)

*1 高齢者・競技者の生理学的特徴・変化を含む

*2 職業倫理を含む

*3 医学史を含む

*4 外傷の保存療法の経過及び治癒の判定を含む

*5 物理療法機器等の取扱い・柔道整復術の適応の臨床的判断(医用画像の理解を含む)を含む

*6 臨床前試験を含む

*7 高齢者・競技者の外傷予防技術を含む

【指定規則に定める授業科目以外の履修科目】

分野・区分	科目	規定単位	計画単位(時間)	1学年単位(時間)	2学年単位(時間)	3学年単位(時間)	
メディカルトレーナー	メディカルトレーナー概論	—	I (15)	I (15)			
	メディカルトレーナー実技						
ハイポルテージ療法		—	I (15)	I (15)			
キネシオテーピング技術		—	I (15)	I (15)			
フィジカルトレーナー	フィジカルトレーナー概論	—	I (15)	I (15)			
	フィジカルトレーナー実技						
アロマセラピー	アロマセラピー概論	—	2 (30)	2 (30)			
	アロマセラピー実技						
小計			6 (90)	6 (90)			

【授業概要】 心理学における諸分野(認知心理学、学習心理学、社会心理学、臨床心理学)の基礎的知識を学習する。心理学の知識が、勉学、日常的な人間関係、仕事でいかに活かせるか理解する。

【到達目標】 教養としての心理学の基礎的な知識を確実に身に付ける。
心理学の知識を実生活で積極的に活用できるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	心理学の目的と研究方法	野上
2	記憶のメカニズム(1) 記憶の定着を促す要因	野上
3	記憶のメカニズム(2) 記憶の正確さに影響を及ぼす要因	野上
4	学習のメカニズム(1) 行動変容を促す要因	野上
5	学習のメカニズム(2) 学習方略の諸相	野上
6	モティベーション(1) 内発的動機づけと外発的動機づけ	野上
7	モティベーション(2) モティベーションの促進要因	野上
8	対人影響(1) 対人コミュニケーション	野上
9	対人影響(2) リーダーシップ	野上
10	対人認知(1) 対人魅力	野上
11	対人認知(2) 偏見と差別	野上
12	心の発達	野上
13	ストレスの発生メカニズムとストレスマネジメント	野上
14	心理療法の諸相	野上
15	事故防止に関わる心理的対策	野上
16	定期試験	野上

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】 配布資料

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

- 【授業概要】** コンピュータは研究・教育やビジネスばかりではなく、家庭にも深く浸透している。コンピュータ利用に関する基礎的知識を習得して各種アプリケーションをうまく利用することを学ぶ。また、めまぐるしく流動する情報ユビキタス社会の流れに乗り遅れないようにするため、情報化社会を取り巻く文化的・科学的・工学的・経済的・社会的な課題を実例に取り上げ講義を進める。
- 【到達目標】** 情報科学に関する基礎的知識を習得し、各種アプリケーションをうまく利用することを学ぶ。さらに、将来における実務業務や研究活動等に情報科学の知識を用いたアプローチができるようになる。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	情報学の概要	コンピュータの成り立ちと近年の情報通信技術やユビキタス社会の紹介
2	タイピングの基礎	タイピング練習サイトを利用した練習方法
3	Microsoft-Word 1	Microsoft-Wordを利用した文書作成①
4	Microsoft-Word 2	Microsoft-Wordを利用した文書作成②
5	Microsoft-Word 3	Microsoft-Wordを利用したカンファレンス資料の作成①
6	Microsoft-Word 4	Microsoft-Wordを利用したカンファレンス資料の作成②
7	Microsoft-Excel 1	Microsoft-Excelの基本操作を学ぶ
8	Microsoft-Excel 2	Microsoft-Excelを利用した表計算
9	Microsoft-Excel 3	Microsoft-Excelを利用したデータ管理
10	Microsoft-Excel 4	Microsoft-Excelを利用した統計分析
11	Microsoft-Excel 5	Microsoft-Excelを利用したグラフ作成
12	まとめ	WordとExcelのまとめ
13	Microsoft-Power point 1	プレゼンテーション資料の作成①
14	Microsoft-Power point 2	プレゼンテーション資料の作成②
15	Microsoft-Power point 3	プレゼンテーションの実践
16	定期試験	

- 【授業外学修】** 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「大学生のための基礎情報処理」（共立出版）

【参考書名】 配布資料

【評価方法】 定期試験90%、タイピング習熟度10%

科目名： 医療英語（前期）

授業形態： 講義

担当教員： 重久 瞳
通年4単位

【授業概要】 テキスト・参考図書等を基礎として、医学に関する英語に親しみ理解を深める。

【到達目標】 テキスト・参考図書等を基礎として、英語が理解できるようにする。

医療現場で使用する英語の理解と読解および実践的英語の基本を身につける。積極的な取組を期待する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション Let's Get Back to the Basics	重久
2	Unit 1 be動詞 body parts & organs 1	重久
3	Unit 2 一般動詞（現在） body parts & organs 2	重久
4	Unit 3 一般動詞（過去） body parts & organs 3	重久
5	Unit 4 進行形 body parts & organs 4	重久
6	Unit 5 未来形 body parts & organs 5	重久
7	Unit 6 助動詞 body parts (adjectives)	重久
8	Unit 7 名詞・冠詞 bones muscles,nerves 1	重久
9	Unit 8 代名詞 bones muscles,nerves 2	重久
10	Unit 9 前置詞 bones muscles,nerves 3	重久
11	Unit 10 形容詞・副詞 bones muscles,nerves 4	重久
12	Unit 11 比較 bones muscles,nerves 5	重久
13	Unit 12 命令文・感漢文 bones muscles,nerves 6	重久
14	Review 1 other body parts 1	重久
15	Review 2 other body parts 2	重久
16	定期試験	重久

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等に目を通すこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する。（約1時間）

【教科書名】 First Primer (Revised Edition) (Nan'un-do)

【参考書名】 「音声と例文でおぼえる医療英単語1000」(南雲堂)・「医学英語」(医道の日本)

【評価基準】 定期試験90%

授業態度10%（積極性、私語や居眠りなく授業に参加、教科書や配布資料等の忘れ物をしない）

科目名： 医療英語（後期）

授業形態： 講義

担当教員： 重久 瞳
通年4単位

【授業概要】 テキスト・参考図書等を基礎として、医学に関する英語に親しみ理解を深める。

【到達目標】 テキスト・参考図書等を基礎として、カルテで使用される医学英単語が理解できるようにする。

医療現場で使用する英語の理解と読解および実践的英語の基本を身につける。積極的な取組を期待する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	Unit 13 接続詞（I） other body parts 3	重久
2	Unit 14 不定詞（I）・動名詞（I） other body parts 4	重久
3	Unit 15 受動態 other body parts 5	重久
4	Unit 16 現在完了形 diseases 1	重久
5	Unit 17 接続詞（II） diseases 2	重久
6	Unit 18 5つの基本文型 diseases 3	重久
7	Unit 19 各種疑問文 diseases 4	重久
8	Unit 20 不定詞（II） diseases 5	重久
9	Unit 21 Itの特別用法 diseases 6	重久
10	Unit 22 分詞・動名詞（II） diseases 7	重久
11	Unit 23 関係代名詞 diseases 8	重久
12	まとめ 1 diseases 9	重久
13	まとめ 2 symptoms 1	重久
14	Review 1 symptoms 2	重久
15	Review 2 symptoms 3	重久
16	定期試験	重久

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等に目を通すこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する。（約1時間）

【教科書名】 First Primer (Revised Edition) (Nan'un-do)

【参考書名】 「音声と例文でおぼえる医療英単語1000」(南雲堂)・「医学英語」(医道の日本)

【評価基準】 定期試験90%

授業態度10%（積極性、私語や居眠りなく授業に参加、教科書や配布資料等の忘れ物をしない）

科目名： 保健体育(前期)

授業形態： 講義・実技

担当教員： 遠矢 大将
通年2単位

【授業概要】

複数のスポーツ種目で、主にゲーム中心の活動を行う。
保健・医療に関する幅広い知識を身に付ける。

【到達目標】

安全に留意して積極的かつ協調性をもって活動する。
保健・医療に対する幅広い知識を身に付ける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション・レク活動	遠矢
2	集団行動①	遠矢
3	集団行動②	遠矢
4	バレー・ボール&バドミントン①	遠矢
5	バレー・ボール&バドミントン②	遠矢
6	バレー・ボール&バドミントン③	遠矢
7	バレー・ボール&バドミントン④	遠矢
8	バレー・ボール&バドミントン⑤	遠矢
9	バレー・ボール&バドミントン⑥	遠矢
10	バレー・ボール&バドミントン⑦	遠矢
11	バレー・ボール&バドミントン⑧	遠矢
12	バレー・ボール&バドミントン⑨	遠矢
13	バレー・ボール&バドミントン⑩	遠矢
14	バレー・ボール&バドミントン⑪	遠矢
15	座学	遠矢

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する項目を理解すること。(約1時間)
復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】 受講態度80% (競技への意欲・関心40%、競技への積極的な参加40%) 集団行動10% 小テスト10%

科目名： 保健体育(後期)

授業形態： 講義・実技

担当教員： 遠矢 大将
通年2単位

【授業概要】

複数のスポーツ種目で、主にゲーム中心の活動を行う。
保健・医療に関する幅広い知識を身に付ける。

【到達目標】

安全に留意して積極的かつ協調性をもって活動する。
保健・医療に対する幅広い知識を身に付ける。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	オリエンテーション・レク活動	遠矢
2	集団行動①	遠矢
3	集団行動②	遠矢
4	バスケットボール&フットサル①	遠矢
5	バスケットボール&フットサル②	遠矢
6	バスケットボール&フットサル③	遠矢
7	バスケットボール&フットサル④	遠矢
8	バスケットボール&フットサル⑤	遠矢
9	バスケットボール&フットサル⑥	遠矢
10	バスケットボール&フットサル⑦	遠矢
11	バスケットボール&フットサル⑧	遠矢
12	バスケットボール&フットサル⑨	遠矢
13	バスケットボール&フットサル⑩	遠矢
14	バスケットボール&フットサル⑪	遠矢
15	座学	遠矢

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する項目を理解すること。(約1時間)
復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。(約1時間)

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】 受講態度80% (競技への意欲・関心40%、競技への積極的な参加40%) 集団行動10% 小テスト10%

科目名： 経営学概論（前期）

授業形態： 講義

担当教員：

通年4単位

【授業概要】 企業の存在意義及び存在の目的について概要を学び、企業が活躍していく上で必要とされる役割や、外部環境に適合させて継続的に事業を遂行するためのマネジメントについて理解を深める。
経営戦略の意義と目的の概要を学び、その構成要素と階層構造から経営戦略の流れを理解する。

【到達目標】 広い経営学の知識を体系的に学ぶことによって、今後、転換期の現代社会がどのような変化を遂げていくのかを見通す力を養い、各自の卒業後の進路選択や事業企画に役立てるようとする。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	経営と企業活動(1) 経営活動概念、経営目的	
2	経営と企業活動(2) 経営計画、その他の重要キーワード	
3	経営戦略(1) 経営戦略の策定	
4	経営戦略(2) 戦略フロー	
5	全社戦略(1) ドメインの決定、コア・コンピタンスの選択と育成	
6	全社戦略(2) 事業ポートフォリオ・ライフサイクル	
7	全社戦略(3) PPM、成長戦略と多角化	
8	全社戦略(4) M&A、全社戦略（グローバル化・情報化）	
9	事業戦略(1) 競争優位の基本戦略	
10	事業戦略(2) ポーターの3つの基本戦略、競争のメカニズム	
11	事業戦略(3) 事業の経済性分析（規模の経済、範囲経済、連結の経済）	
12	事業戦略(4) 外部環境分析（マクロ環境分析・SWOT分析）	
13	事業戦略(5) 内部環境分析（バリューチェーン）	
14	事業戦略(6) 競争地位別戦略、事業ライフスタイル戦略	
15	事業戦略(7) CSR、情報開示、コーポレート・ガバナンス	
16	定期試験	

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「プレステップ経営学」（弘文堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名： 経営学概論（後期）

授業形態： 講義

担当教員：

通年4単位

【授業概要】 経営戦略を立案する場合に必ず考慮しなければならない経営目的、経営理念、経営ビジョンなどの体系について学び、「経営戦略論」「経営組織論」「マーケティング論」等の企業経営論、それらが企業活動の中でのような役割を果たしているのかについての理解を深める。

【到達目標】 広い経営学の知識を体系的に学ぶことによって、今後、転換期の現代社会がどのような変化を遂げていくのかを見通す力を養い、各自の卒業後の進路選択や事業企画に役立てるようとする。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	経営組織(1) 組織と戦略	
2	経営組織(2) マッキンゼーの7S	
3	経営組織(3) 機能別組織・事業部制組織・カンパニー制	
4	経営組織(4) 持ち株会社・マトリックス組織とプロジェクトチーム	
5	経営組織(5) ティラー、ファヨール、ウェーバー組織論	
6	経営組織(6) 個人とモチベーションの理論	
7	経営組織(7) マズローの欲求5段階説	
8	経営組織(8) アルダファのERG理論	
9	経営組織(9) マクレガーのX理論・Y理論	
10	経営組織(10) リーダーシップ理論	
11	マーケティング概論(1) 定義、コンセプト、戦略的マーケティング	
12	マーケティング概論(2) ターゲット・マーケティングと市場細分化	
13	マーケティング概論(3) マーケティングの3類型 市場細分化	
14	マーケティング概論(4) マーケティング・ミックスと4P	
15	マーケティング概論(5) 消費者購買行動・AIDMA理論	
16	定期試験	

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】

【参考書名】 「プレステップ経営学」（弘文堂）

【評価基準】 定期試験100%

科目名：解剖学Ⅰ（前期）

授業形態：講義

担当教員：

竹山 理
4単位

【授業概要】 解剖学の第2章運動系のA骨格系で骨の役割から構造など総論をはじめ、脊柱、胸郭、上肢骨、下肢骨、頭蓋骨の骨の名称や場所の名称又は関節や体表解剖についても学ぶ。

【到達目標】 運動器の基礎として骨格系は後期から始まる運動学の筋系や柔道整復学の基本的な知識のひとつなので熟知し、専門基礎分野や専門分野の学習に備える。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	第2章運動系 A骨格系 総論①	竹山
2	第2章運動系 A骨格系 総論②	竹山
3	第2章運動系 A骨格系 総論③	竹山
4	第2章運動系 A骨格系 総論④	竹山
5	第2章運動系 A骨格系 総論⑤	竹山
6	第2章運動系 A骨格系 総論⑥	竹山
7	第2章運動系 A骨格系 総論⑦	竹山
8	第2章運動系 A骨格系 2各論 体幹骨①	竹山
9	第2章運動系 A骨格系 2各論 体幹骨②	竹山
10	第2章運動系 A骨格系 2各論 体幹骨③	竹山
11	第2章運動系 A骨格系 2各論 体幹骨④	竹山
12	第2章運動系 A骨格系 2各論 体幹骨⑤	竹山
13	第2章運動系 A骨格系 2各論 上肢骨①	竹山
14	第2章運動系 A骨格系 2各論 上肢骨②	竹山
15	第2章運動系 A骨格系 2各論 上肢骨③	竹山
16	第2章運動系 A骨格系 2各論 上肢骨④	竹山
17	第2章運動系 A骨格系 2各論 下肢骨①	竹山
18	第2章運動系 A骨格系 2各論 下肢骨②	竹山
19	第2章運動系 A骨格系 2各論 下肢骨③	竹山
20	第2章運動系 A骨格系 2各論 下肢骨④	竹山
21	第2章運動系 A骨格系 2各論 下肢骨⑤	竹山
22	第2章運動系 A骨格系 2各論 下肢骨⑥	竹山
23	第2章運動系 A骨格系 2各論 下肢骨⑦	竹山
24	第2章運動系 A骨格系 2各論 下肢骨⑧	竹山
25	第2章運動系 A骨格系 2各論 下肢骨⑨	竹山
26	第2章運動系 A骨格系 2各論 下肢骨⑩	竹山
27	第2章運動系 A骨格系 2各論 頭蓋骨①	竹山
28	第2章運動系 A骨格系 2各論 頭蓋骨②	竹山
29	第2章運動系 A骨格系 2各論 頭蓋骨③	竹山
30	第2章運動系 A骨格系 2各論 頭蓋骨④	竹山
31	定期試験	竹山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読み、

医療用語に関しては、医学辞書にて調べておくこと。（約1時間）

復習：授業内容を教科書・資料などを見直しながら整理、理解し、

さらに重要語句の暗記に努めること。（約1時間）

【教科書名】 「解剖学」（医歯薬出版）「プロメテウス」（医学書院）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験 100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 からだの各器官の構造を学び、からだ全体のしくみを理解する。

【到達目標】 各臓器および運動器の構造の詳細な知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	1章 人体解剖概説①	横山
2	1章 人体解剖概説②	横山
3	1章 人体解剖概説③	横山
4	1章 人体解剖概説④	横山
5	3章 脈管系①	横山
6	3章 脈管系②	横山
7	3章 脈管系③	横山
8	3章 脈管系④	横山
9	4章 内臓系 B.呼吸器①	横山
10	4章 内臓系 B.呼吸器②	横山
11	4章 内臓系 B.呼吸器③	横山
12	4章 内臓系 B.呼吸器④	横山
13	4章 内臓系 B.呼吸器⑤	横山
14	4章 内臓系 B.呼吸器⑥	横山
15	4章 内臓系 A.消化器①	横山
16	4章 内臓系 A.消化器②	横山
17	4章 内臓系 A.消化器③	横山
18	4章 内臓系 A.消化器④	横山
19	4章 内臓系 A.消化器⑤	横山
20	4章 内臓系 A.消化器⑥	横山
21	4章 内臓系 C.泌尿器①	横山
22	4章 内臓系 C.泌尿器②	横山
23	4章 内臓系 C.泌尿器③	横山
24	4章 内臓系 C.泌尿器④	横山
25	2章 運動系 A.骨系①	横山
26	2章 運動系 A.骨系②	横山
27	2章 運動系 A.骨系③	横山
28	2章 運動系 A.骨系④	横山
29	まとめ	横山
30	質疑応答・演習問題解説	横山
31	定期試験	横山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「解剖学」（医歯薬出版）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】 からだの各器官の構造を学び、からだ全体のしくみを理解する。

【到達目標】 各臓器および運動器の構造の詳細な知識を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	5章 内分泌①	横山
2	5章 内分泌②	横山
3	4章 内臓系 D.生殖器①	横山
4	4章 内臓系 D.生殖器②	横山
5	4章 内臓系 D.生殖器③	横山
6	4章 内臓系 D.生殖器④	横山
7	2章 運動系 B.筋系①	横山
8	2章 運動系 B.筋系②	横山
9	2章 運動系 B.筋系③	横山
10	2章 運動系 B.筋系④	横山
11	2章 運動系 B.筋系⑤	横山
12	2章 運動系 B.筋系⑥	横山
13	2章 運動系 B.筋系⑦	横山
14	2章 運動系 B.筋系⑧	横山
15	2章 運動系 B.筋系⑨	横山
16	2章 運動系 B.筋系⑩	横山
17	6章 神経系 A.神経系の基礎 B.脳 C.脊髄①	横山
18	6章 神経系 A.神経系の基礎 B.脳 C.脊髄②	横山
19	6章 神経系 A.神経系の基礎 B.脳 C.脊髄③	横山
20	6章 神経系 A.神経系の基礎 B.脳 C.脊髄④	横山
21	6章 神経系 D.末梢神経①	横山
22	6章 神経系 D.末梢神経②	横山
23	6章 神経系 D.末梢神経③	横山
24	6章 神経系 D.末梢神経④	横山
25	7章 感覚器	横山
26	7章 感覚器	横山
27	8章 体表解剖	横山
28	8章 体表解剖	横山
29	まとめ	横山
30	質疑応答・演習問題解説	横山
31	定期試験	横山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「解剖学」（医歯薬出版）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【授業概要】 運動学Ⅰでは主に筋について学習する。

身体の部位ごとの筋の名称や作用、起始・停止、支配神経を学び、関節運動やそれに伴う身体の動作など筋に付随することを学ぶ。

【到達目標】 骨、関節、筋の構造と機能を学び、身体の運動を理解するとともに、今後の柔道整復学の基礎的知識としては勿論だが、柔道整復師として臨床の場で必要な知識として習熟してほしい。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	第4章 運動器の構造と機能 A骨の構造と機能	竹山
2	第4章 運動器の構造と機能 B関節の構造と機能	竹山
3	第4章 運動器の構造と機能 C骨格筋の構造と機能	竹山
4	第4章 運動器の構造と機能の復習	竹山
5	第8章 四肢と体幹の運動 L顔面及び頭部の運動①	竹山
6	第8章 四肢と体幹の運動 L顔面及び頭部の運動②	竹山
7	第8章 四肢と体幹の運動 L顔面及び頭部の運動③	竹山
8	第8章 四肢と体幹の運動 H体幹と脊柱の運動	竹山
9	第8章 四肢と体幹の運動 I頸椎の運動	竹山
10	第8章 四肢と体幹の運動 J胸椎と胸郭の運動	竹山
11	第8章 四肢と体幹の運動 K腰椎、仙椎および骨盤の運動	竹山
12	第8章 四肢と体幹の運動 H,I復習	竹山
13	第8章 四肢と体幹の運動 J,K復習	竹山
14	第8章 四肢と体幹の運動 A上肢帯の運動①	竹山
15	第8章 四肢と体幹の運動 A上肢帯の運動②	竹山
16	第8章 四肢と体幹の運動 B肩関節の運動①	竹山
17	第8章 四肢と体幹の運動 B肩関節の運動②	竹山
18	第8章 四肢と体幹の運動 C肘関節と前腕の運動①	竹山
19	第8章 四肢と体幹の運動 C肘関節と前腕の運動②	竹山
20	第8章 四肢と体幹の運動 D手関節と手の運動①	竹山
21	第8章 四肢と体幹の運動 D手関節と手の運動②	竹山
22	第8章 四肢と体幹の運動 E股関節の運動①	竹山
23	第8章 四肢と体幹の運動 E股関節の運動②	竹山
24	第8章 四肢と体幹の運動 F膝関節の運動①	竹山
25	第8章 四肢と体幹の運動 F膝関節の運動②	竹山
26	第8章 四肢と体幹の運動 G足関節と足部の運動①	竹山
27	第8章 四肢と体幹の運動 G足関節と足部の運動②	竹山
28	第8章 四肢と体幹の運動 D,E復習	竹山
29	第8章 四肢と体幹の運動 F,G復習	竹山
30	第8章 四肢と体幹の運動 総復習	竹山
31	定期試験	竹山

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読み、

医療用語に関しては、医学辞書にて調べておくこと。（約1時間）

復習：授業内容を教科書・資料などを見直しながら整理、理解し、

さらに重要語句の暗記に努めること。（約1時間）

「運動学」（医歯薬出版）「解剖学」（医歯薬出版）「プロメテウス」（医学書院）

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】

【実務経験】

定期試験 100%

病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名：衛生学・公衆衛生学（前期）

授業形態：講義

担当教員：

滝川 義弘
通年2単位

【授業概要】 健康の概念を明確化し、その保持・増進（保健）、すなわち疾病の予防から、生活の質（QOL）の向上のための方法論を総合的に学習する。

【到達目標】 柔道整復師に必要な公衆衛生学の基礎知識を身につけ、応用できること。
柔道整復師国家試験科目の一つでもある公衆衛生学を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	1.衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動(A.衛生学・公衆衛生学の歴史 B.公衆衛生学活動)	滝川
2	2.健康の概念(A.健康の語源と理解 B.健康を維持するまでの生活の役割 C.慢性疾患と生活 D.健康の測定)	滝川
3	3.疾病予防と健康管理(A.疾病の自然史と予防 B.病因と危険因子 C.疾病予防の段階 D.加齢・生活習慣と疾病)	滝川
4	3.疾病予防と健康管理(E.健康管理のスペクトラムと活動の構成 F.集団検診 G.健康管理の技法 H.健康管理の今後)	滝川
5	4.感染症の予防①(A.感染症とは)	滝川
6	4.感染症の予防②(A.感染症とは)	滝川
7	4.感染症の予防③(A.感染症とは B.予防と対策)	滝川
8	4.感染症の予防④(B.感染の予防対策)	滝川
9	5.消毒①(A.消毒とは)	滝川
10	5.消毒②(B.消毒の種類と方法 C.消毒法の応用)	滝川
11	6.環境保健①(A.環境とは B.人間(主体)・環境系 C.生体における量と反応関係 D.環境問題)	滝川
12	6.環境保健②(E.環境の把握 F.環境の評価 G.物理的環境要因 H.化学的環境要因 J.公害 K.空気の衛生と大気汚染)	滝川
13	6.環境保健③(L.環境の測定と評価 M.環境基準とその設定 N.環境政策)	滝川
14	6.環境保健④(O.地球環境の管理 P.最近の環境問題)	滝川
15	前期まとめ	滝川
16	定期試験	滝川

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「衛生学・公衆衛生学」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名：衛生学・公衆衛生学（後期）

授業形態：講義

担当教員：

滝川 義弘
通年2単位

【授業概要】 健康の概念を明確化し、その保持・増進（保健）、すなわち疾病の予防から、生活の質（QOL）の向上のための方法論を総合的に学習する。

【到達目標】 柔道整復師に必要な公衆衛生学の基礎知識を身につけ、応用できること。
柔道整復師国家試験科目の一つでもある公衆衛生学を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	7.母子保健	滝川
2	8.学校保健	滝川
3	9.産業保健	滝川
4	10.成人・老人保健	滝川
5	11.精神保健	滝川
6	12.生活環境・食品衛生活動①(A.水の衛生水質汚染 B.衣服 C.住居)	滝川
7	12.生活環境・食品衛生活動②(D.食品 E.食品衛生活動)	滝川
8	12.生活環境・食品衛生活動③(F.栄養改善活動 G.廃棄物処理 H.消費者保健活動)	滝川
9	13.地域保健と国際保健①(A.地域保健とは B.地域社会のとらえ方 C.地域 D.地域保健活動の特徴 E.地域保健活動の進め方)	滝川
10	13.地域保健と国際保健②(F.地域特性とその指標 G.現状 G.国際協力保険機構)	滝川
11	14.衛生行政と保健医療の制度①(A.衛生行政の考え方 B.わが国の衛生行政機構(組織)の概要 C.関連機関の役割 D.保健医療行政の財政 E.医療施設 F.保健医療従事者)	滝川
12	14.衛生行政と保健医療の制度②(G.医療保険 H.公費(負担)医療 I.国民医療費 J.健康づくり K.保健・医療・福祉関係の法規 L.医療と公衆衛生活動の問題と倫理)	滝川
13	15.疫学①(A.疫学とは B.病因論:疾病の成り立ち C.疫学モデル D.疫学調査の手順と留意事項)	滝川
14	15.疫学②(D.疫学調査の手順と留意事項 E.疫学で用いる主な統計手法)	滝川
15	後期まとめ	滝川
16	定期試験	滝川

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名：柔道 I (前期)

授業形態：実技

担当教員：

附田 拓也
通年2単位

【授業概要】 3年次の『認定実技試験』に向けての準備。柔道の基本を学ぶ。

【到達目標】 柔道により柔道整復の源を学ぶとともに、健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	ガイダンス(柔道衣の着方・畳み方・身だしなみなどの説明)	附田
2	準備運動 礼法(礼法:立礼・座礼・座り方・立ち方) 後ろ受身・横受身	附田
3	準備運動 礼法 後ろ受身・横受身・前受身	附田
4	準備運動 礼法 後ろ受身・横受身・前受身・前回り受身①	附田
5	準備運動 礼法 後ろ受身・横受身・前受身・前回り受身②	附田
6	準備運動 礼法 後ろ受身・横受身・前受身・前回り受身③	附田
7	準備運動 礼法 後ろ受身・横受身・前受身・前回り受身④	附田
8	準備運動 礼法 後ろ受身・横受身・前受身・前回り受身⑤	附田
9	準備運動 礼法 後ろ受身・横受身・前受身・前回り受身⑥	附田
10	準備運動 礼法 後ろ受身・横受身・前受身・前回り受身⑦	附田
11	準備運動 礼法 後ろ受身・横受身・前受身・前回り受身⑧	附田
12	準備運動 礼法 後ろ受身・横受身・前受身・前回り受身⑨	附田
13	準備運動 礼法 後ろ受身・横受身・前受身・前回り受身⑩	附田
14	準備運動 礼法 後ろ受身・横受身・前受身・前回り受身⑪	附田
15	まとめ・柔道の歴史	附田
16	定期試験(実技・筆記試験)	附田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に該当する動画(画像など)を見ておくこと。(約30分)

復習:授業内容を整理・理解し、教科書や資料を見ておくこと。(約30分)

【教科書名】 「柔道教室」(大修館書店)

【参考書名】 「投の形」(講道館)

【評価基準】 定期試験(実技試験70%・筆記試験30%)

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名：柔道 I (後期)

授業形態：実技

担当教員：

附田 拓也
通年2単位

【授業概要】 3年次の『認定実技試験』に向けての準備。柔道の基本を学ぶ。

【到達目標】 柔道により柔道整復の源を学ぶとともに、健全な身体の育成及び礼節をわきまえた人格を形成する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	準備運動 礼法 前回り受身 投の形【手技】浮落①	附田
2	準備運動 礼法 前回り受身 投の形【手技】浮落②	附田
3	準備運動 礼法 前回り受身 投の形【手技】浮落③	附田
4	準備運動 礼法 前回り受身 投の形【手技】浮落④	附田
5	準備運動 礼法 前回り受身 投の形【手技】浮落⑤	附田
6	準備運動 礼法 前回り受身 投の形【手技】浮落⑥	附田
7	準備運動 礼法 前回り受身 投の形【手技】背負投①	附田
8	準備運動 礼法 前回り受身 投の形【手技】背負投②	附田
9	準備運動 礼法 前回り受身 投の形【手技】背負投③	附田
10	準備運動 礼法 前回り受身 投の形【手技】背負投④	附田
11	準備運動 礼法 前回り受身 投の形【手技】背負投⑤	附田
12	準備運動 礼法 前回り受身 投の形【手技】背負投⑥	附田
13	準備運動 認定実技審査対策(模擬練習 ⇒ 礼法、前回り受身、【手技】浮落・背負投)①	附田
14	準備運動 認定実技審査対策(模擬練習 ⇒ 礼法、前回り受身、【手技】浮落・背負投)②	附田
15	まとめ	附田
16	定期試験(実技・筆記試験)	附田

【授業外学修】 予習:講義に臨む前に該当する動画(画像など)を見ておくこと。(約30分)

復習:授業内容を整理・理解し、教科書や資料を見ておくこと。(約30分)

【教科書名】 「柔道教室」(大修館書店)

【参考書名】 「投の形」(講道館)

【評価基準】 定期試験(実技試験70%・筆記試験30%)

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【授業概要】 柔道整復学の基礎を学ぶ。

【到達目標】 柔道整復学（各論：骨折・脱臼・軟部組織損傷）を学習する前に基礎である学習すると同時に、柔道整復師として備えるべき外傷疾患の対応能力の強化の為、外傷の保存療法についての知識を身に付け、外傷の経過及び治療判断に役立てる。*5

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員	
1	骨の概説 (P23~24) ①	竹山	
2	骨の概説 (P23~24) ②	竹山	
3	骨損傷の分類 (P24~31) ①	竹山	
4	骨損傷の分類 (P24~31) ②	竹山	
5	骨損傷の分類 (P24~31) ③	竹山	
6	骨損傷の分類 (P24~31) ④	竹山	
7	骨損傷の分類 (P24~31) ⑤	竹山	
8	骨損傷の分類 (P24~31) ⑥	竹山	
9	骨損傷の分類 (P24~31) ⑦	竹山	
10	骨損傷の分類 (P24~31) ⑧	竹山	
11	骨損傷の分類 (P24~31) ⑨	竹山	
12	骨損傷の分類 (P24~31) ⑩	竹山	
13	骨損傷の分類 (P24~31) ⑪	竹山	
14	骨損傷の分類 (P24~31) ⑫	竹山	
15	骨折の症状 (P31~39) ①	竹山	
16	骨折の症状 (P31~39) ②	竹山	
17	骨折の症状 (P31~39) ③	竹山	
18	骨折の症状 (P31~39) ④	竹山	
19	骨折の症状 (P31~39) ⑤	竹山	
20	骨折の症状・合併症 (P31~39) ①	竹山	
21	骨折の症状・合併症 (P31~40) ②	竹山	
22	骨折の症状・合併症 (P31~41) ③	竹山	
23	骨折の症状・合併症 (P31~42) ④	竹山	
24	骨折の症状・合併症 (P31~43) ⑤	竹山	
25	骨折の症状・合併症 (P31~44) ⑥	竹山	
26	骨折の症状・合併症 (P31~45) ⑦	竹山	
27	骨折の症状・合併症 (P31~46) ⑧	竹山	
28	骨折の症状・合併症 (P31~47) ⑨	竹山	
29	骨折の症状・合併症 (P31~48) ⑩	竹山	
30	小児骨折・高齢者骨折の特徴 (P40~43) ①	竹山	
31	小児骨折・高齢者骨折の特徴 (P40~43) ②	竹山	
32	小児骨折・高齢者骨折の特徴 (P40~43) ③	竹山	
33	小児骨折・高齢者骨折の特徴 (P40~43) ④	竹山	
34	小児骨折・高齢者骨折の特徴 (P40~43) ⑤	竹山	
35	骨折の整復法 (P91~93) ①	竹山	
36	骨折の整復法 (P91~93) ②	竹山	
37	骨折の整復法 (P91~93) ③	竹山	
38	骨折の整復法 (P91~93) ④	竹山	
39	骨折の整復法 (P91~94) ⑤	竹山	
40	骨折の治癒 (P41~45) ①	外傷の経過及び治療判断	竹山
41	骨折の治癒 (P41~45) ②	外傷の経過及び治療判断	竹山
42	骨折の治癒 (P41~45) ③	外傷の経過及び治療判断	竹山
43	骨折の固定法 (P98~100) ①	竹山	
44	骨折の固定法 (P98~100) ②	竹山	
45	骨折の固定法 (P98~100) ③	竹山	
46	定期試験	竹山	

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読み、
医療用語に関しては、医学辞書にて調べておくこと。（約2時間）

復習：授業内容を教科書・資料などを見直しながら整理、理解し、
さらに重要語句の暗記に努めること。（約2時間）

【教科書名】 「柔道整復学 理論編」（南江堂） 「柔道整復学 実技編」（南江堂）

【参考書名】

定期試験100%

【評価基準】

病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【実務経験】

【授業概要】 柔道整復学の基礎を学ぶ。

【到達目標】 柔道整復学（各論：骨折・脱臼・軟部組織損傷）を学習する前に基礎である学習すると同時に、柔道整復師として備えるべき外傷疾患の対応能力の強化の為、外傷の保存療法についての知識を身に付け、外傷の経過及び治療判断に役立てる。*4

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員	
1	関節の損傷-脱臼(P58-P65)①	竹山	
2	関節の損傷-脱臼(P58-P65)②	竹山	
3	関節の損傷-脱臼(P58-P65)③	竹山	
4	関節の損傷-脱臼(P58-P65)④	竹山	
5	関節の損傷-脱臼(P58-P65)⑤	竹山	
6	関節の損傷-捻挫①(P52~59)	外傷の経過及び治療判断	竹山
7	関節の損傷-捻挫②(P52~59)	外傷の経過及び治療判断	竹山
8	関節の損傷-捻挫③(P52~59)	外傷の経過及び治療判断	竹山
9	関節の損傷-捻挫④(P52~59)	外傷の経過及び治療判断	竹山
10	関節の損傷-捻挫⑤(P52~59)	外傷の経過及び治療判断	竹山
11	筋の損傷(P65-P72)①(P69~73)	外傷の経過及び治療判断	竹山
12	腱の損傷(P73-P77)②(P69~73)	外傷の経過及び治療判断	竹山
13	末梢神経の損傷(P82~85)③	外傷の経過及び治療判断	竹山
14	血管系・リンパ系・皮膚の損傷④	外傷の経過及び治療判断	竹山
15	後療法(P101-110)①	外傷の経過及び治療判断	竹山
16	後療法(P101-110)②	外傷の経過及び治療判断	竹山
17	後療法(P101-110)③	外傷の経過及び治療判断	竹山
18	後療法(P101-110)④	外傷の経過及び治療判断	竹山
19	後療法(P101-110)⑤	外傷の経過及び治療判断	竹山
20	後療法(P101-110)⑥	外傷の経過及び治療判断	竹山
21	後療法(P101-110)⑦	外傷の経過及び治療判断	竹山
22	後療法(P101-110)⑧	外傷の経過及び治療判断	竹山
23	診察①(P86~90)	竹山	
24	その他(指導管理・評価・医療面接)①	竹山	
25	その他(指導管理・評価・医療面接)②	竹山	
26	その他(指導管理・評価・医療面接)③	竹山	
27	その他(指導管理・評価・医療面接)④	竹山	
28	各論 2 上肢①	竹山	
29	各論 2 上肢②	竹山	
30	各論 2 上肢③	竹山	
31	各論 2 上肢④	竹山	
32	各論 2 上肢⑤	竹山	
33	各論 2 上肢⑥	竹山	
34	各論 2 上肢⑦	竹山	
35	各論 2 上肢⑧	竹山	
36	各論 2 上肢⑨	竹山	
37	各論 2 上肢⑩	竹山	
38	各論 2 上肢⑪	竹山	
39	各論 2 上肢⑫	竹山	
40	各論 2 上肢⑬	竹山	
41	各論 2 上肢⑭	竹山	
42	各論 2 上肢⑮	竹山	
43	各論 2 上肢⑯	竹山	
44	各論 2 上肢⑰	竹山	
45	各論 2 上肢⑱	竹山	
46	定期試験	竹山	

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読み、

医療用語に関しては、医学辞書にて調べておくこと。（約2時間）

復習：授業内容を教科書・資料などを見直しながら整理、理解し、

さらに重要語句の暗記に努めること。（約2時間）

【教科書名】

「柔道整復学 理論編」（南江堂） 「柔道整復学 実技編」（南江堂）

【参考書名】

定期試験100%

【評価基準】

病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

【実務経験】

科目名：包帯実技(前期)

授業形態：実技

担当教員：知念 友紀
通年3単位

【授業概要】 柔道整復師の包帯学において、基本となる包帯法を学ぶ。

【到達目標】 柔道整復師認定実技試験または、実践臨床の場で用いるための基本となる包帯法を習得する。
2・3年次における臨床実習に対応できるよう、基本的臨床能力を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	固定(目的・範囲・肢位)、固定材料の種類	知念
2	上手な巻軸帯の巻き方と注意事項、巻軸帯の巻き戻し	知念
3	基本包帯法(環行帯・螺旋帯・蛇行帯)①	知念
4	基本包帯法(環行帯・螺旋帯・蛇行帯)②	知念
5	基本包帯法(折転帯・亀甲帯)①	知念
6	基本包帯法(折転帯・亀甲帯)②	知念
7	基本包帯法(麦穂帯)①	知念
8	基本包帯法(麦穂帯)②	知念
9	基本包帯復習①	知念
10	基本包帯復習②	知念
11	基本包帯復習③	知念
12	部位別包帯法(頭部)① 部位別包帯法(頭部)②	知念
13	部位別包帯復習①	知念
14	部位別包帯復習②	知念
15	まとめ	知念
16	定期試験	知念

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。(約1時間)
復習：授業内容を整理し、家族や知人の身体を借りて反復練習を行うこと。(約1時間)

【教科書名】 「包帯固定学」(南江堂)

【参考書名】 「柔道整復学 理論編 実技編」(南江堂)

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名：包帯実技（後期）

授業形態：実技

担当教員：知念 友紀
通年3単位

【授業概要】 柔道整復師の包帯学において、基本となる包帯法を学ぶ。

【到達目標】 柔道整復師認定実技試験または、実践臨床の場で用いるための基本となる包帯法を習得する。
2・3年次における臨床実習に対応できるよう、基本的臨床能力を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	部位別包帯法（手関節部・前腕部）①	知念
2	部位別包帯法（手関節部・前腕部）②	知念
3	部位別包帯法（指部）①	知念
4	部位別包帯法（指部）②	知念
5	部位別包帯法（足関節部）①	知念
6	部位別包帯法（足関節部）②	知念
7	部位別包帯法（肩部）①	知念
8	部位別包帯法（肩部）②	知念
9	部位別包帯法（胸部・背部）①	知念
10	部位別包帯法（胸部・背部）②	知念
11	部位別包帯法（下腿部）①	知念
12	部位別包帯法（下腿部）②	知念
13	部位別包帯法（肘部・膝関節部）①	知念
14	部位別包帯法（肘部・膝関節部）②	知念
15	部位別包帯法（大腿部、股関節部）①	知念
16	部位別包帯法（大腿部、股関節部）②	知念
17	冠名包帯法（ヴェルポー包帯法⇒左右）①	知念
18	冠名包帯法（ヴェルポー包帯法⇒左右）②	知念
19	冠名包帯法（ヴェルポー包帯法⇒左右）③	知念
20	冠名包帯法（ジュール包帯法⇒左右）①	知念
21	冠名包帯法（ジュール包帯法⇒左右）②	知念
22	冠名包帯法（ジュール包帯法⇒左右）③	知念
23	冠名包帯法（デゾー包帯法⇒左右）①	知念
24	冠名包帯法（デゾー包帯法⇒左右）②	知念
25	冠名包帯法（デゾー包帯法⇒左右）③	知念
26	部位別包帯法（手関節部・前腕部・指部）復習	知念
27	部位別包帯法（足関節部・肩部・胸部・背部）復習	知念
28	部位別包帯法（下腿部、大腿部、股関節部）復習	知念
29	冠名包帯法（ヴェルポー包帯法・ジュール包帯法・デゾー包帯法）復習①	知念
30	まとめ	知念
31	定期試験	知念

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）
復習：授業内容を整理し、家族や知人の身体を借りて反復練習を行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「包帯固定学」（南江堂） 「柔道整復学 理論編 実技編」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床3年以上、週1回学外臨床参加

科目名：柔道整復実技Ⅰ（前期）

授業形態：実技

担当教員：三宅 史晃
通年2単位

【授業概要】 臨床実習前教育で身に付けておくべき基本的臨床能力を習得するため、医療面接・身体診察法（身体計測・ROM・MMT・徒手検査）・体表観察・基本的臨床手技を学ぶ。
*臨床前試験を含む

【到達目標】 2・3年次における臨床実習に対応できるよう、基本的臨床能力を習得する。
また、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を養う。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	RICE処置 テーピングの基礎知識	三宅
2	基本的臨床手技（身体診察法：ROM・MMT・徒手検査）足関節①	三宅
3	基本的臨床手技（身体診察法：ROM・MMT・徒手検査）足関節②	三宅
4	基本的臨床手技（身体診察法：ROM・MMT・徒手検査）足関節③	三宅
5	基本的臨床手技（身体診察法：ROM・MMT・徒手検査）膝関節①	三宅
6	基本的臨床手技（身体診察法：ROM・MMT・徒手検査）膝関節②	三宅
7	基本的臨床手技（身体診察法：ROM・MMT・徒手検査）股関節（腰・背部）	三宅
8	基本的臨床手技（身体診察法：ROM・MMT・徒手検査）肩関節	三宅
9	基本的臨床手技（身体診察法：ROM・MMT・徒手検査）肘関節	三宅
10	基本的臨床手技（身体診察法：ROM・MMT・徒手検査）手関節	三宅
11	基本的臨床手技（ストレッチ 伸長法など含む）①	三宅
12	基本的臨床手技（ストレッチ 伸長法など含む）②	三宅
13	基本的臨床手技（ストレッチ 伸長法など含む）③	三宅
14	基本的臨床手技（ストレッチ 伸長法など含む）④	三宅
15	基本的臨床手技（ストレッチ 伸長法など含む）⑤	三宅
16	定期実技試験（臨床前試験＊6）	三宅

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する骨・筋・関節を教科書・資料等を用いて確認すること。（約1時間）
復習：授業で学んだ基本的臨床手技の練習を行い、実践に備えること。（約1時間）

【教科書名】 「柔道整復学 実技編」（南江堂）「骨格筋の形と触察法」（大峰閣）
「実践図解プロが教える正しく巻ける！即効テーピング」（学研）

【参考書名】 「IDストレッチング」（三輪書店）

【評価基準】 定期実技試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上

科目名：柔道整復実技Ⅰ（後期）

授業形態：実技

担当教員：中村 大隆

通年2単位

【授業概要】 臨床実習前教育で身に付けておくべき基本的臨床能力を習得するため、医療面接・身体診察法（身体計測・ROM・MMT・徒手検査）・体表観察・基本的臨床手技を学ぶ。
*臨床前試験を含む

【到達目標】 2・3年次における臨床実習に対応できるよう、基本的臨床能力を習得する。
また、臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに実践的能力を養う。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	医療面接（問診について）	中村
2	Part1 体表観察（全身・骨盤）	中村
3	Part.2 体表観察 基本的臨床手技（TP）背部・上肢・頸部①	中村
4	Part.2 体表観察 基本的臨床手技（TP）背部・上肢・頸部②	中村
5	Part.2 体表観察 基本的臨床手技（TP）背部・上肢・頸部③	中村
6	Part.2 体表観察 基本的臨床手技（TP）背部・上肢・頸部④	中村
7	Part.2 体表観察 基本的臨床手技（TP）背部・上肢・頸部⑤	中村
8	Part.3 体表観察 基本的臨床手技（TP）腰部・臀部・大腿部①	中村
9	Part.3 体表観察 基本的臨床手技（TP）腰部・臀部・大腿部②	中村
10	Part.3 体表観察 基本的臨床手技（TP）腰部・臀部・大腿部③	中村
11	Part.3 体表観察 基本的臨床手技（TP）腰部・臀部・大腿部④	中村
12	Part.3 体表観察 基本的臨床手技（TP）腰部・臀部・大腿部⑤	中村
13	身体診察法（身体計測：BMI・四肢長・四肢周径）	中村
14	評価の実施	中村
15	総合練習（問診⇒視診⇒施術⇒評価⇒ストレッチORテーピング→指導管理）	中村
16	定期実技試験（臨床前試験＊6）	中村

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に該当する骨・筋・関節を教科書・資料等を用いて確認すること。（約1時間）
復習：授業で学んだ基本的臨床手技の練習を行い、実践に備えること。（約1時間）

【教科書名】 「柔道整復学 実技編」（南江堂）「骨格筋の形と触察法」（大峰閣）

「実践図解プロが教える正しく巻ける！即効テーピング」（学研）

【参考書名】 「IDストレッチング」（三輪書店）

【評価基準】 定期実技試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上、週1回学外臨床参加

科目名：柔道整復実技Ⅱ（前期）

授業形態：実技

担当教員：三宅 史晃
通年4単位

【授業概要】 柔道整復実技の基礎と応用を学ぶ。

【到達目標】 柔道整復実技の基礎的知識と技術を習得する。
2・3年次における臨床実習に対応できるよう、基本的臨床能力を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	金属シーネを使用した固定の基礎	三宅
2	厚紙副子を使用した固定の基礎	三宅
3	上肢の固定法 肩関節の固定（厚紙副子の作成）①	三宅
4	上肢の固定法 肩関節の固定（厚紙副子による固定）①	三宅
5	上肢の固定法 肘関節の固定（金属シーネの作成）①	三宅
6	上肢の固定法 肘関節の固定（金属シーネによる固定）①	三宅
7	上肢の固定法 前腕の固定（厚紙副子・金属シーネの作成）①	三宅
8	上肢の固定法 前腕の固定（厚紙副子・金属シーネによる固定）①	三宅
9	上肢の固定法 手指の固定（アルミ副子の作成）①	三宅
10	上肢の固定法 手指の固定（アルミ副子による固定）①	三宅
11	上肢の固定法 手指の固定（アルミ副子の作成）②	三宅
12	上肢の固定法 手指の固定（アルミ副子による固定）②	三宅
13	上肢の固定法 上腕の固定（ミッテルドルフによる固定）①	三宅
14	上肢の固定法 上腕の固定（ミッテルドルフの作成）①	三宅
15	体幹の固定法 鎮骨の固定（厚紙副子の作成）①	三宅
16	体幹の固定法 鎮骨の固定（厚紙副子による固定）①	三宅
17	体幹の固定法 肩鎖関節の固定（厚紙副子の作成）①	三宅
18	体幹の固定法 肩鎖関節の固定（厚紙副子による固定）①	三宅
19	体幹の固定法 肋骨の固定（厚紙副子の作成）①	三宅
20	体幹の固定法 肋骨の固定（厚紙副子による固定）①	三宅
21	下肢の固定法 下腿部の固定（金属シーネの作成）①	三宅
22	下肢の固定法 下腿部の固定（金属シーネによる固定）①	三宅
23	下肢の固定法 下腿部の固定（金属シーネの作成）②	三宅
24	下肢の固定法 下腿部の固定（金属シーネによる固定）②	三宅
25	足部の固定法 足部の固定（厚紙副子の作成）①	三宅
26	足部の固定法 足部の固定（厚紙副子による固定）①	三宅
27	石膏ギブス固定①	三宅
28	石膏ギブス固定②	三宅
29	上肢の固定法 まとめ①	三宅
30	上肢の固定法 まとめ②	三宅
31	定期試験	三宅

【授業外学修】 予習：施術者に相応しい身だしなみにて受講すること。

各回授業内容の予習（発生機序・転位・症状等）を教科書や資料にて確認し受講すること（約1時間）

復習：固定法を家族や友人へ反復練習し、2・3年次の臨床実習で実践できるよう習得すること（約1時間）

【教科書名】

「柔道整復学 実技編」（南江堂） 「柔道整復学 理論編」（南江堂） 「包帯固定学」（南江堂）

【参考書名】

「柔道整復学 実技編」（南江堂） 「柔道整復学 理論編」（南江堂） 「包帯固定学」（南江堂）

【評価基準】

定期試験100%

【実務経験】

病院または施術所における臨床5年以上

科目名：柔道整復実技Ⅱ（後期）

授業形態：実技

担当教員：三宅 史晃
通年4単位

【授業概要】 柔道整復実技の基礎と応用を学ぶ。

【到達目標】 上肢・下肢の固定法の基礎を習得する。
2・3年次における臨床実習に対応できるよう、基本的臨床能力を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	鎖骨骨折の固定①	三宅
2	鎖骨骨折の固定②	三宅
3	肩鎖関節脱臼の固定①	三宅
4	肩鎖関節脱臼の固定②	三宅
5	肩関節脱臼の固定①	三宅
6	肩関節脱臼の固定②	三宅
7	上腕骨骨幹部骨折の固定①	三宅
8	上腕骨骨幹部骨折の固定②	三宅
9	肘関節脱臼の固定①	三宅
10	肘関節脱臼の固定②	三宅
11	コレス骨折の固定①	三宅
12	コレス骨折の固定②	三宅
13	手第2指PIP関節背側脱臼の固定①	三宅
14	手第2指PIP関節背側脱臼の固定②	三宅
15	第5中手骨頸部骨折の固定①	三宅
16	第5中手骨頸部骨折の固定②	三宅
17	肋骨骨折の固定①	三宅
18	肋骨骨折の固定②	三宅
19	下腿骨幹部骨折の固定①	三宅
20	下腿骨幹部骨折の固定②	三宅
21	アキレス腱断裂の固定①	三宅
22	アキレス腱断裂の固定②	三宅
23	足関節外側靱帯損傷の副子固定①	三宅
24	足関節外側靱帯損傷の副子固定②	三宅
25	上肢のキャストライト固定①	三宅
26	上肢のキャストライト固定②	三宅
27	下肢のキャストライト固定①	三宅
28	下肢のキャストライト固定②	三宅
29	固定法まとめ②	三宅
30	固定法まとめ①	三宅
31	定期試験	三宅

【授業外学修】 予習：施術者に相応しい身だしなみにて受講すること。

各回授業内容の予習（発生機序・転位・症状等）を教科書や資料にて確認し受講すること（約1時間）

復習：固定法を家族や友人へ反復練習し、2・3年次の臨床実習で実践できるよう習得すること（約1時間）

【教科書名】

「柔道整復学 実技編」（南江堂）「柔道整復学 理論編」（南江堂）「包帯固定学」（南江堂）

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上

科目名： メディカルトレーナー（前期）

授業形態： 講義・実技

担当教員：

三宅 史晃

1 単位

*この科目は柔道整復師指定規則外の科目である。

【授業概要】

本校独自の正規カリキュラムとして、スポーツトレーナーに関わる知識を習得する為、
日本スポーツリハビリテーション学会認定トレーナーテキストを基に講義を行う。

【到達目標】

メディカルトレーナーに必要な、知識、技術を身に付け、民間資格の取得を行う。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	スポーツトレーナーについて	三宅
2	物理療法（温熱・寒冷療法）	三宅
3	徒手療法 頭頸部/体幹	三宅
4	徒手療法 上肢/下肢	三宅
5	ストレッチングについて（効果と目的）	三宅
6	ストレッチ・検査測定 上肢	三宅
7	ストレッチ・検査測定 下肢	三宅
8	ストレッチ・検査測定 体幹	三宅
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかりと読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 JSSR認定トレーナーテキスト 骨格筋の形と触察法

【参考書名】

【評価基準】 授業態度100%（授業への意欲・関心50%、授業への積極的な参加50%）

【実務経験】 病院または施術所における臨床5年以上

科目名：ハイポルテージ療法（後期）

授業形態：実技・講義

担当教員：古澤 忍

1 単位

*この科目は柔道整復師指定規則外の科目である。

【授業概要】 物理療法の概要、電気療法の基礎、ハイポルテージの使い方と治療法を学ぶ。

【到達目標】 笑顔道式ハイポルテージによる施術、施術の際の診たての大切さの理解

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	電気治療の基礎、物理療法・ハイポルテージとは	古澤
2	ハイポルテージの頭頸部への当て方、知識確認①	古澤
3	ハイポルテージの頭頸部へのアプローチ、ハイポルテージの腰部への当て方	古澤
4	ハイポルテージの腰部へのアプローチ、知識確認②	古澤
5	ハイポルテージの肩部へのア当て方、アプローチ	古澤
6	ハイポルテージの肩部へのアプローチ、ハイポルテージの膝への当て方	古澤
7	ハイポルテージの膝へのアプローチ、知識確認③	古澤
8	定期試験	古澤
9	定期試験後の復習と解説、症状別の治療法	古澤
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

【授業外学修】 予習：授業に臨む前に該当する身体の部位の解剖学を学ぶこと（1時間）

復習：資料の見直し、ハイポルテージ療法の代わりに指での押圧（1時間）

【教科書名】 配布資料

【参考書名】

【評価基準】 定期試験100%

科目名: キネシオテーピング技法

授業形態: 実技・講義

担当教員: 高倉 祥

| 単位

* この科目は柔道整復師指定規則外の科目である。

【授業概要】 キネシオテーピング理論とその療法について学び、全身で基礎となるテープの貼り方、また実際の現場でのテープの選択、使用方法、注意点などを学ぶ

【到達目標】 整骨院現場・トレーナー現場等にて施術を行っていく上で、テープ種類毎の使い分け、効果を出すための貼り方の基礎を習得し、患者様一人一人へより適したテープの選択と受傷直後から完治までのテープの使い方を習得する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	キネシオテーピング療法について	高倉
2	基礎のキネシオテーピング	高倉
3	上肢へのキネシオテーピング	高倉
4	上肢帯へのキネシオテーピング	高倉
5	下肢へのキネシオテーピング①	高倉
6	下肢へのキネシオテーピング②	高倉
7	頸部へのキネシオテーピング	高倉
8	腰部へのキネシオテーピング	高倉
9	定期試験	高倉
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

【授業外学修】 予習: 講義に臨む前に該当する資料をしっかり読んでおくこと(1時間)

復習: 授業内容を振り返り、内容の理解に努める(1時間)

【教科書名】 配布資料

【参考書名】

【評価基準】 定期試験50% 授業態度50% (積極的な授業への参加)

科目名： フィジカルトレーナー（後期）

*この科目は柔道整復師指定規則外の科目です

授業形態： 講義・実技

担当教員：

三宅 史晃

1 単位

【授業概要】

本校独自の正規カリキュラムとして、スポーツトレーナーに関わる知識を習得する為、
パーソナルフィットネストレーナーテキストを基に講義を行う。

【到達目標】

フィットネストレーナーに必要な、知識、技術を身に付け民間資格の取得を希望する学生は合格を目指し、
希望しない学生は学内でのトレーナー活動で実践できるように実践的能力を養う。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	筋力トレーニングについて	三宅
2	トレーニングのプログラム設計①	三宅
3	上肢エクササイズ①	三宅
4	下肢エクササイズ①	三宅
5	体幹エクササイズ①	三宅
6	エクササイズの実践	三宅
7	エクササイズの実践	三宅
8	ファーストエイド	三宅
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

パーソナルフィットネストレーナー 骨格筋の形と触察法

【教科書名】

【参考書名】

【評価基準】

【実務経験】

授業態度100%（授業への意欲・関心50%、授業への積極的な参加50%）

病院または施術所における臨床5年以上

科目名：アロマセラピー概論・実技（前期）

授業形態：講義・実習

担当教員：住吉 光輝・原 奈摘美

2単位

*この科目は柔道整復師指定規則外科目である。

【授業概要】 植物の香りが心や体に及ぼす作用を学び、香りに親しみ、愉しみながら、より豊かなライフスタイルを提案・実現できるセラピストを目指す。

【到達目標】 植物の香りが心や体に及ぼす作用を理解する。

【授業の進め方】

回数	授業内容	担当教員
1	アロマセラピー概要 精油使用上の知識	実技:バスソルト 住吉・原
2	精油の抽出方法 抽出部位	実技:ボディシャンプー 住吉・原
3	キャリアオイルの役割と条件 キャリアオイルの種類	実技:トリートメントオイル 住吉・原
4	ブレンドの比率と香りの相性	実技:ローション 住吉・原
5	人間の脳と嗅覚	実技:フェイスパック 住吉・原
6	フェイストリートメント(表情筋とトリートメント方法)	実技:フェイス用オイル 住吉・原
7	香りの歴史	実技:ハンガリーウォーター 住吉・原
8	精油の安全性	実技:マウスウォッシュ 住吉・原
9	精油の作用	実技:ヘアパック 住吉・原
10	ボディトリートメント(循環器・リンパ系・精油の代謝と排出)	実技:ボディトリートメントオイル 住吉・原
11	香りの心理	実技:エアーフレッシュナー 住吉・原
12	フレグランスの知識	実技:オリジナル香水 住吉・原
13	精油に含まれる成分	実技:歯磨き粉 住吉・原
14	精油の禁忌を示す成分	実技:蜜ろうクリーム 住吉・原
15	アロマテラピーに関する法律	住吉・原

【授業外学修】 予習：講義に臨む前に、該当する教科書・資料等をしっかり読んでおくこと。（約1時間）

復習：授業内容を整理し、理解する振り返りを行うこと。（約1時間）

【教科書名】 「学生用レッスンテキスト」、「精油テキスト」(JAAアロマコーディネーター協会)

【参考図書】